

子どもたちは意見を言っていますか

平成元年の国連総会で採択された子どもの権利条約には、「子どもは自分に関する自由に意見を言うことができ、大人はそれを尊重すること」と記されています。これは子どもの権利条約の4つの原則の一つとされています。

30年ほど前の、私が住む地区の子ども会での話です。当時子ども会のキャンプは、親が調理室で食事を作り、親がキャンプファイアのゲームを考え、親が準備した冷房の効いた部屋で泊まっていた。話を聞くと、危ないことを避け、手間が掛かることを簡略化するうちにこうなったそうです。私は「子どもたちがこのキャンプを楽しんでいるのか」という疑問を持ちました。

翌年このキャンプを任されることになった私は、まず6年生の子どもたちを集めて、キャンプでしたいことについて尋ねました。子どもたちからは、テント泊、飯ごう炊さん、キャンプ



ファイア、肝試しの4つを自分たちでやってみようという意見が出ました。親からは心配する声もありましたが、子どもたちの希望をかなえるキャンプに協力することになりました。その結果、「このキャンプで自分の意見が言えたこと」「願いがかない参加したみんなが喜んだこと」が、6年生の子どもたちの大きな自信になりました。このときの子どもたちの多くは、現在、親として地区で活躍してくれています。

子どもたちの意見は「希望」であり「夢」のようなもので、キャンプの話のように、大人が聞かないとなかなか言えないものなのかもしれません。家庭、地域、学校において、子どもたちが安心して意見を言えるように、まずは私たち大人が子どもたちと話をする機会を持ち、子どもたちの意見を聞ける人でありたいですね。



四国八十八カ所巡りの道中にたたずむ



西林寺の板碑2基



西林寺の境内にある四国八十八カ所霊場巡りの道中、本堂の南西側の平坦面には、桃山時代の「板碑」という石造品が2基並んで建てられています。向かって右側の板碑は、高さは91センチ、上端を三角(山形)にして釈迦三尊の種子(諸仏を表す梵字)を刻み、下部には3つの蓮華座を線彫りしており、文禄4(1595)年に建てられたことが記されています。左の板碑は先端はほぼ三角形を成し、これも釈迦三尊の種子を刻みます。高さは95センチで、右の板碑の10年後の慶長10(1605)年に建てられたことが分かります。どちらも大乗妙典、すなわち法華經を一千部読誦したことを記念して建てられた貴重な石造文化財です。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

▼問合せ 郷土資料館 (☎23 5992)

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー



表彰式で室伏長官から「体力づくり優秀組織表彰」を受賞

運動+食事=「健康」！ このほど、西脇市は「令和5年度体力づくり優秀組織表彰(文部科学大臣賞)」を受賞しました。スポーツ庁が地域や職域における保健・栄養の改善や、スポーツなどの普及運動の推進に取り組む自治体を表彰するもので、室伏広治スポーツ庁長官から賞をいただきました。健康運動教室Nicoや健康ポイント事業、また、各地域での介護予防事業、にしわき健康メニューキャンペーンの実施なども評価されました。とてもうれ



西脇市長 片山象三

しいことです。健康には、体を動かすことに併せて、食事も大変重要です。日本人の食生活は、時代の流れとともに変化していますが、「日本食」は健康・長寿を支える要因の一つである。特に、1汁3菜のような典型的な日本食が健康維持に効果的であるとの研究結果も出ています。また、研究から見えてきたことは、主食であるご飯(お米)の「健康パワー」。本市は西脇多可料飲組合のご協力を得て、にしわきレシピコンテストを実施しています。今回で11回目となるコンテストの今年のテーマは「お米」。過去最多の応募の中、最終審査に残ったのは、なんと中学生と高校生の5名。若い方が食に関心を持ち、挑戦いただくことを頼もしく思います。アイデアがどう評価されるか楽しみです。元氣なまち西脇市とともに創ってまいりましょう。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

参画と協働のまちづくりを目指して

重春・野村地区交流推進委員会の紹介

コミュニティセンター重春・野村地区会館(クローバープラザ)は、「参画と協働のまちづくり」「交流、連携およびコミュニティの推進」を目指しています。



今年度はみらいえのイラストマップを作成しました。多世代の市民がさまざまな目的でみらいえを訪れている様子が描かれ、市民同士の交流や自己啓発、学び、憩いの場になっていることを表しています。また利用

者がより親しみをもち、「みんなで創るみらいえ」の意識を持つてほしいという思いを込めています。みらいえへお越しの際はぜひご覧ください。



◀みらいえのイラストマップ

西脇の自然 600

ツマキチョウ

しろちょう科



前翅の稜、先端部分が鍵状にとがっており、オスはその部分が黄色いので「稜黄蝶」の名前が付けました。しかし、メスは黄色くならず白色です。羽の裏面には緑色の複雑な模様があり、見掛けるたびに面白いチョウだと思います。大きさは3センチほどでモンシロチョウより一回り小さく、パタパタと羽を小刻みに動かして直線的に飛ぶ特徴があります。

雑木林周辺や畑など、幼虫の食草であるタネツケバナやナズナ、ダイコンなどのアブラナ科の植物が生える場所で、春先の3月中旬から5月中旬くらいまで見ることができます。

発生時期が短く、出会えない年も多いので、見掛けると「今年は見れた!」と、なんだかうれしくなります。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】